

紫峰会報



筑波大学開学30周年創基131年)

第88号

2003年12月3日発行

編集・発行 紫峰会[筑波大学学生後援会] 〒305-0005 茨城県つくば市天久保3-10-7学園都市ビル3F Tel 029-852-8572



パレードで練り歩く徳島県人会の阿波踊り
第29回筑波大学学園祭雙峰祭

REALJAMによるヒップ・ホップダンス(右上)
してしまったサークルにとってはほろ
苦い雨となった。

ときめき太鼓塾のパフォーマンス(右下)
筑波大学開学30周年記念式典

10月11日から13日まで第29回筑波大学学園祭雙峰祭が行われた。体芸地区から第二・三学群地区にかけてのペDESTリアンデッキは、サークルやクラスの有志らによる模擬店に加え、広島県人会による広島風お好み焼きや、タイ留学生によるタイ料理「サワディー」など、総合大学らしく郷土色・国際色豊かな250もの模擬店が祭に華を添えた。

松美池ステージや図書館前のUNITEステージでは、バンドやアカペラによるライブ、応援団によるパフォーマンスや合気道部などの武道系サークルの演武会などが繰り広げられ、祭の雰囲気盛り上げた。ステージ発表するサークルの多くは、学園祭での発表を年間の目標として数ヶ月前から練習や打合せを積み重ねているところも多く、その成果を存分に発揮しようという心意気が観客の心を捕らえていた。二日目午前中と三日目午後以降雨のため、模擬店やステージ企画の一部予定変更があり、発表の機会を逸

教室では、野生動物研究会による学内野生動物写真展、世界遺産パネル展示、芸術専門学群による芸術祭など質の高い企画が観客の目を楽しませた。また工学システム学類によるロボットコンテストは11日に予選、13日に本選が行われた。同学類の授業の中でロボットの制作が行われ、その一環として学園祭でコンテストが行われている。決められた時間内により早くより多く荷物を運ばせるためチーム毎に工夫を凝らしたロボットが腕を競った。

本部企画では、チャイルドマシーンとダイノジによる爆笑ライブが行われ、会場を埋め尽くした600人余りの観客を爆笑の渦に巻き込んだ。また、グレートジャーニーに成功した関野吉春氏の講演会は、300人の教室に立ち見が出るほどの盛況振りであった。

今年の雙峰祭は、史上最多となる400もの企画が参加し、開学30周年を飾るにふさわしい祭となった。(取材/体育会広報局長 永浜陽介・人文3年)

10月1日、大学会館講堂において、筑波大学開学30周年(創基131年)記念式典が開催された。東京教育大学の移転により新構想の大学として1973年10月1日に開学してから30年目、1872年の師範学校設立から数えると131年目となる。

午前11時から行われた式典には、国立大学協会長の佐々木毅東大総長や宮島龍興元筑波大学長ら来賓や学内教職員を含めて約800人が出席した。式辞で北原学長は「開学以来、本学は我が国を代表する総合大学として確かな地位を確立してきました。三十周年と法人化を大きな節目とし、これからも我が国の大学改革を先導していき



学長から感謝状を受け取る菱沼会長(写真右)

Campus News

い。」と決意を述べた。来賓祝辞、来賓紹介の後に、筑波大学に多大な貢献があった団体・個人に対する感謝状贈呈があり、菱沼かづ子紫峰会会長が、北原学長より感謝状を贈呈された。

同日朝、式典に先立って「イチイ」の記念植樹が行われた。植樹は昨年たてられ筑波大学中央表示塔両脇に3本ずつ、計6本が植えられた。北原学長は「イチイを目印に大学1位を目指したい」とあいさつした。

また、開学30周年記念事業の一環として先端学術講演会が9月27日(土)午後1時より学術総合センター一橋記念講堂において行われた。記念講演では「21世紀、文明はどう進化するか」と題し秋元勇巳(三菱マテリアル株式会社取締役相談役)氏が講演、また平成14年度に筑波大学より採択された21世紀COEプログラムの紹介として、深水昭吉教授らによる「複合生物系の不思議・魅力・パワー」、門脇和男教授らによる「魅惑の物質、材料、そしてナノサイエンス」、西平賀昭教授らによる「人間生存への健康・運動・スポーツ科学の貢献」と題した講演が行われた。

TIMS(白川センター)開所式・記念講演会



会所式で挨拶する白川英樹名誉教授

11月10日(月)午後1時30分より大会館講堂において筑波大学学際物質科学研究センター(TIMS)の開所式が行われた。

同センターは、2000年のノーベル化学賞を受賞された白川英樹名誉教授の業績を記念するとともに、工学と理学の枠を越えた連携と融合により、未

来型機能性物質群の創成と学際的物質科学研究の新機軸の構築、さらには研究成果の社会還元を図ることを目的として平成15年4月に設置され今回その正式な旗揚げとして開所式・記念講演会の開催となった。

開所式では、北原学長の挨拶に続き赤木和夫センター長(物理工学系教授)は「我が国における未来型機能性物質群研究の中心地として、加速的に進展している世界の研究の流れに立ち向かっていきたい」と抱負を述べた

また11月10日、11日の両日に渡り、白川英樹筑波大学名誉教授、ノーベル化学賞共同受賞者のAlan J. Heeger カリフォルニア大学教授、Alan G. MacDiarmidペンシルベニア大学教授、前筑波大学長の江崎玲於奈芝浦工業大学長らノーベル賞受賞者4名を招いて、記念講演会が開催された。

筑波大新学長に岩崎氏



北原学長と握手する岩崎洋一氏(右)

10月27日、任期満了に伴う学長候補者選考会議が開催され、物理学系教授の岩崎洋一氏が次期学長候補者に決定し、本部棟8Fゲストルームにて記者会見が行われた。任期は来年4月1日から3年間で国立大法人化後の初代学長となる。

10月1日候補者の公示があり、被推薦者は岩崎洋一氏のみであった。さらに10月22日に行われた講師以上の教官1527名による意向調査では、過半数の895票を獲得した。これらの結果を受けて、学長候補者選考会議(評議員と学外運営諮問会議委員ら計23名で構成)が開かれ、満場一致で岩崎氏を学長候補者に決定した。

岩崎氏は記者会見で「国立大学唯一の総合大学であること、筑波研究学園都市に位置することなど、筑波大学の特色・強みを最大限に活用して、国際

的に存在感のある、大学院を重視した研究型総合大学を作っていきたい」と抱負を語った。岩崎氏は京都大出身で、専門分野は素粒子物理学。1975年より筑波大学に勤務、1998年から4年間研究担当副学長を務めていた。

第5回天上大風開催

9月23日(祝)、筑波大学開学記念館にて第5回伝統文化系サークル合同企画「天上大風～咲け!伝統の華～」を開催しました。芸術系と文化系の垣



秋の青空に透き通った琴の音が響く

根を越えて、華道部、歌留多部、茶道部和敬清寂社、書道部、筑波大学津軽三味線倶楽部無絃塾、筑波能・狂言研究会、ときめき太鼓塾、邦楽部、焼き物を作る会、の計9サークルが一堂に会し、日ごろの活動成果を演奏、演舞、展示、体験コーナーなど各々趣向を凝らして発表したものです。

数ヶ月に及ぶ準備期間中には数々のトラブルや失敗に苦しみ、やっとそれを乗り越えたと思えば、今度は台風の影響でこの企画自体が中止に追い込まれそうになるなど心配は尽きませんでした。しかし、当日は天候にも恵まれ、200人近い方にご来場いただき、お蔭さまでかつてない大盛況となりました。「普段あまり触れる機会の無い伝統文化を多くの人に体感してほしい、学生だけでなく、子供からお年寄りまで楽しんでいただきたい」という私たちの思いが実を結んだのだと思います。

来場者の中には前回、前々回に引き続き来てくださっている方も多く、今回の成功はこうして応援して下さる方々に、そして天上大風の歴史を築き上げてきた先輩たちに支えられたものであることを実感しています。このようにご支援して下さっている方々のご期待に応えるべく、私たちは今後も天上大風を良き伝統として守りつつ、

発展させていきたいと考えております。これからも私たちの活動にご注目ください。(寄稿/第5回天上大風責任者 藤田幸夫・国際2年)

現代美術作品路上に出現

10月1日から17日にかけて、つくばセンター付近のペDESTリアンデッキにて、つくばアートウィーク「CROSSING PATH ~路上の巡り合わせ~」が開催された。筑波大学開学30周年とアジア国際デザイン会議を



各作品が独自の空間を創り出す記念し、芸術専門学群・芸術研究科の学生が主体となって行った現代美術の屋外展覧会である。人や物が行き交う(CROSS)路上(PATH)で、学生の勢いに満ち溢れた作品と市民や来訪者との巡り合いが、新たな方向性を示す道標となることを祈って行われた。

突然路上に出現したオブジェ群に通りすがりの人々が足を止め、興味深そうに作品に見入っていた。ずらりと並んだ豚の尻、工事現場のミニチュアのようなもの、吊り下げられた巨大な蛤、昆虫の超拡大写真、目玉のついたドア、空を見上げる直線的な動物……。それぞれの作品の傍らには、製作者の作品への思いやコメントを綴ったプリントが置かれていた。大量消費社会における生の意識の低下、あるいは自分以外の世界や自分自身に対する意識について、または自己の作品制作理念の追求など、さまざまなメッセージが伝わってきた。

開催期間中は天候に恵まれたが、特に15日には、晩秋の高い青空と白いうろこ雲が更にさわやかな表情を添えた。秋空とつくばセンター周辺の近未来的都市景観があたかも作品の額縁となり、あっけらかんとした現代美術があいまって、一つの巨大な美術作品となっていた。(取材/芸サ連 川本翠・比文2年)

「秋季スポーツデーを終えて」

筑波大学では全学参加で様々な競技を行うスポーツ・デーが、毎年春と秋の2回開催されています。今回で27回を迎えた秋季のスポーツ・デーではサッカー、キックベース、バレーボール、バドミントン、ソフトテニス、卓球、駅伝の計7種目で行われ、人気種目のサッカーについては170チームを超えたエントリーがあり上位の試合は大変な熱戦となりました。当日は雨に見舞われることもなく全試合全日程無事に終了し、今年度の参加者数は、春季及び秋季合わせて4年ぶりに延べ1万人を超えたものとなり、開学30周年にふさわしい大変な盛り上がりを見せました。

秋季の目玉種目である駅伝では、学内ループ道路を封鎖して行われ、計50チームが陸上競技場から学内道路へと一斉に飛び出していきました。今



秋のキャンパスを駆けめぐる駅伝のスタート年も7連覇中の教職員チームが優勝し、来年こそは優勝カップ奪取をと学生も闘志を燃やしている光景もみられました。

このスポーツ・デーには体育会のサークルやスポーツ・デー学生委員会といった多くの学生が年間を通して企画運営を行い活躍しています。近年、参加者の盛り上がりだけではなく運営側の盛り上がりも目を見張るものがあります。また、スポーツ・デーの競技や運営は新聞に取り上げられたり、中学校の総合学習のテーマの一つになったりと対外的にも高く評価を受けるようになりました。

最後に、スポーツ・デーは筑波大学のスポーツ文化の発展に大きく寄与する行事として次年度以降も続いてほしいと思います。(寄稿/体育会スポーツ・デー局長 永山誠 工シス3年)

「秋季応援バスツアーを終えて」

本年度、我々筑波大学応援団桐葉と体育会の共催による秋季応援バスツアーは、アメリカンフットボール、バレーボール、アイスホッケーの計3回、大型バス計4台でのべ117名の学生に応援を楽しんでもらうことができました。我々筑波大学の体育会各部はそれぞれのリーグで活躍しているにもかかわらず、試合会場が東京近辺のため一般学生が実際に試合会場に来て、その活躍を身近に感じるということが困難です。そのため、この応援バスツアーを通して各部の活躍、応援の楽しさを知ってもらい、一般の人々が自発的に試合会場に足を運んでもらうきっかけになればと思い、企画、運営を行っております。

実際の運営は、体育会代表者会議のアンケートなどをもとに種目を決定し、予算を組みます。また、ポスター、ビラ、ホームページ等を活用しての広報活動、案内状の配布、昼休みに学内に販売場所を設けてのチケット販売等を行いました。当日にはバス内で応援方法の説明、部の情報等を盛り込んだパンフレットや弁当、飲み物を配布し、客を飽かさせないために添乗員が様々な企画を用意して、客を試合会場まで案内します。試合会場に到着すると、応援を通して部の活躍、感動、興



男子バレーボール応援バスツアーにて奮、熱気を肌感じて頂きます。帰りのバス内ではアンケートを取り、改善点等を次の応援バスツアーに反映させています。

本年度はアメリカンフットボールが雨天、アイスホッケーが夜遅くの試合と、不利な条件もございましたが、どれも好評のうちに終了できました。更に良い企画にするため精進していく所存ですので、今後ともどうぞ宜しくお願い致します。(寄稿/応援団桐葉 岡下陽一・人間3年)

就職活動体験記

「就活なんて怖くない」
人間学類4年 松尾洋平
(筑波大学新聞編集部員)



席に着くと、面接官は僕の顔も見ずに、ふてぶてしく言った。

「はい、自己アピールと志望動機を30秒で」

ついに僕も就職活動が始まったな、そう実感した瞬間だった。

3年生の夏。広告代理店のインターンシップに参加しようとした僕は、生まれて初めて面接を経験した。何も考えずに準備さえしていなかった僕の口からは、筑波大学新聞で得た経験が、自然と口から出てきた。幸運にも、僕はこの面接をクリアし、競争率30倍の難関を突破して、インターンシップに参加することができた。その後、就職活動の面接は幾度となく繰り返されてゆく。そのたびに僕は、大学で自分が得た経験を述べてきた。

大学で得た経験を生かす

筑波大学新聞の編集部に所属し、1年生の時から記者として活動していた。3年生の時は1年間、編集長を務めた。学長インタビュー、記者会見への参加、世界的な研究者や活躍する学生の取材など、実に様々なことを経験した。

学内をくまなく歩き回り、幅広く人脈を築き、誰も知らないニュースを掘むことに挑戦していた。まさに「記者は足で稼げ」だ。エレベーターでばったり学長と会ったことがある。挨拶を交わした事を大学職員に話すと「たぶん君は、学長に顔を覚えられている数少ない学生だよ」と笑われた。

僕はマスコミを中心に就職活動を行い、新聞社と出版社から内定を頂いた。学生生活で学んだことが評価されたのだと思う。

モノサシは一つじゃない

高校までの生活と学生生活とを大きく隔てるもの。それは、モノサシは一つではないということだと思ふ。高校までは、勉強の成績が一番大切だった。モノサシは一つしかない。大学では、確かに勉強も大切だが、それだけではない。学園祭の実行委員として奮闘した、ボランティアに挑戦した、サークルのリーダーとして組織をまとめ上げた...様々なことが経験できる。大学でしかできないことに挑戦し、自分なりに努力することが何よりも大切だ。その努力さえあれば、評価してくれるモノサシを持つ会社は見つかる。就職活動とは、そのモノサシを持つ会社を探すことにほかならない。

大学新聞をやっていたせいか、色々な学生と知り合いになった。何かに精一杯取り組んでいる学生たちは、魅力にあふれている。新卒の就職は超氷河期らしい。でも、僕の知っている魅力的な学生たちに、そんなことはきっと関係ない。(日本経済新聞記者職内定)

修士課程経営・政策科学研究
科2年 牧之段 拓



私が就職活動を始めたのは大学院1年の11月頃でした。大学院進学の際に自分の就きたい職業についてはある程度イメージしてたので、業界を絞って研究や資料請求、説明会申し込みを行いました。同時に、自己分析も始めました。自分の過去を時系列で振り返り、自分がどういった事をやってきて、どういった事に興味を見だし、これからどういったことをやりたいのか、ということ徹底的に考えました。

就職活動は採用する企業側や他の就職活動生との「戦い」という側面もありますが、自分との「戦い」も非常に大切です。それができていないと、面接の際に話す内容の底が浅くなってしまいます。私はこの段階でおおよそ自分探しにメドがついていましたので、後々余裕を持って活動できました。本格的にエントリーシートの執筆や採用試験のファースト・ステップである筆記試験が始まったのは年が明けた1月頃でした。この頃になると、平日はほとんど毎日東京に行っていたように思います。

その中で、常に考えていたことがあります。それは、「仕事はあくまで人生の一部であり、就職活動は仕事も含めて自分の人生そのものの方向性を考えるための活動なんだ」ということです。仕事も含めた自分の将来の全体像をイメージし、どういった選択がベストなのかを「人生全体の幸福を最大化する」という観点から考えるようにしていました。滋賀県出身の私は「将来的に実家に帰るのか・帰らないのか」という選択をする必要がありました。この点については両親に電話で相談しました。両親は、「実家の事は気にせずあなたの好きにすればいいよ」と言ってくれました。この一言は、毎日電車で東京に通い心身共に疲れ果てていた私にとってとても励みになりました。時には相談もし、アドバイスももらいました。特に実際に企業で働いている父親のアドバイスはとても参考になりました。

最終的に、私は3社から内定を頂きました。どの企業にも私を高く評価していただき、大変悩みました。そのうちの1社に入社することを決めたと決めたわけですが、選択の決め手となったのは、その会社が東京・大阪両本社制で希望すれば東京採用でも初年度から大阪に勤務する事が可能であった点です。つくばに来て6年近くになりますが、やはり生まれ育った関西への想いを断ち切る事はできませんでした。

私は納得のいく就職活動ができたように思います。落ち込む事も多々ありましたが、心の底で自分を信じて、前を向いて進んでいく事ができました。それができたのは、自分自身と納得いくまで向き合ったからだだと思います。背伸びして必死になってアピールしなくとも、等身大の、ありのままの自分の魅力を相手に伝える事ができれば結果は自ずとついてくる、という考え方に繋がりました。これから社会に出て、どんな現実にも直面しようとも、今の私には想像できないようなつらいことがあるだろうとも、就職活動を通して学んだ姿勢を忘れることなく生きていこうと思います。

就職ガイダンス等日程表		就職課では、下記の日程にて就職ガイダンス等を開催しております。お子様に参加されるよう お前めください。 お問い合わせ 学生部就職課 029-853-6091・029-853-2256		
企画名	日時・場所	実施内容	講師	
企業・ 団体 関係	12/3 13:45～ 2H201	「就職活動の進め方」	（科）(以日経就職情報作業推進部 山崎 敏宏 氏	
	12/3 13:45～ 2H101	エントリーシート実践講座	菊地 信一 氏(PUコーポレーション)	
	12/10 13:45～ 2H101	適性検査実践講座	学生援護会講師	
	12/17 13:45～ 2H101	模擬面接実践講座	菊地 信一 氏(PUコーポレーション)	
	12/24 13:45～ 2H101	就職活動直前の心構えおよび就職環境について	リクルート就職ジャーナル編集長 宮坂 優 氏	
公務員 関係	12/6 9:00～ 2H201	模擬試験（地方上級）	教養、専門（法律・経済・行政）	
	12/24 16:00～ 2H101	教養試験対策及び二次試験対策	早稲田セミナー	
	1/10 9:00～ 2H201	模擬試験（国家I種）	教養、専門（法律・経済・行政）	
	2/7 9:00～ 2H201	模擬試験（国家II種）	教養、専門（法律・経済・行政）	
	3/6 9:00～ 2H201	模擬試験（地方上級）	教養、専門（法律・経済・行政）	
	3/10 14:00～ 2C404	二次試験対策（面接・官庁訪問・集団討論）	早稲田セミナー	
	3月下旬 早稲田セミナー-東京本校	模擬試験（国家I種）	教養、専門、論文、専門（記述式）	
5月下旬 早稲田セミナー-東京本校	模擬試験（国家I種・地方上級・都庁類・特別区外）	教養、専門、論文、専門（記述式）		
教員 関係	1/21 14:00～ 2B412	模擬試験（全国型・第1回）	教養	
	3/16 15:15～ 2C305	受験対策の指導(面接の心得)	茗溪会事務局次長 中間 健太 氏	
	3/22 14:00～ 2B411	模擬試験（東京都型）	教養	
	3/24 14:00～ 2C404	模擬試験（神奈川県・横浜市・川崎市型）	教養、論作文	
	4/21 14:00～ 会場未定	模擬試験（全国型・第2回）	教養、専門、論作文	
	4/28 14:00～ 会場未定	模擬試験（北海道・札幌市型）	教養、論作文	
	5/12 14:00～ 会場未定	模擬試験（全国型・第3回）	教養、専門、論作文	

学生相談室から

受付窓口 029-853-2415
電話相談 029-853-2406

「保護者の皆様へ」

上月 英樹（臨床医学系）

私は精神科医という立場で、皆様の大事な息子さんと娘さんと日々対峙しています。多くの学生が、さまざまな問題を抱えて相談室に来られるわけですが、これまでの私のつたない経験から感じたこと、保護者の方々にお知らせしたいことなどを書いてみます。

相談の秘密は守られるが、生命にかかわる重大なときは例外である

私の場合、他者から相談についての問い合わせがあったときは、本人の了解が取れているか必ず確認します。了解が得られていなければお話しすることもありませんが、生命にかかわるような重大なとき、例えば自分を傷つけたい衝動が強く抑制できそうもないときや実際に過量服薬したとき、深刻な精神のやまいで治療に一刻を争うようなときなどは、十分な本人の同意がなくとも保護者のかたに連絡し、状態や医学的見立てを話すようにしています。

相談室で静かにこころの問題を話し合い、洞察を深めていくことが理想的ですが上記のようなときは、そうもい

きません。帰省して静養するにしても皆様方のご理解が必要不可欠です。

皆様からの電話などでの相談では助言はできるが、診断は出来ない

保護者の皆様だけが来所されたり、電話で相談されることも多いのですが、私は本人を相談ルートに乗せるための方法や、複数の障害の可能性までは話せても、診断することはできません。これまでの情報は皆様の目から見た様子であり、多くは生まれたときからの本人を知っている皆様の実感なので真実であると思われるのですが、医師は本人を診察しなければ診断できません。特に精神科領域の安易な診断の情報、時に重大な事態になることがあります。うつ病を単なる落ち込みとみなしたときなど...

精神科医に相談していて、もどかしい思いをすることもあるかと存じますが、是非ご理解をお願いいたします。

すぐに良い反応がなくとも、信頼していることやいつまでも支持していくことを、時折表現していくことは、有効である

青年期の心性を一言で言うなら、依存しながらの反発でしょう。仕送りしても連絡なし、親の誕生日に音沙汰なし、かとおもえば急に里帰りしてサー

クルの合宿費用をねだる、天下国家を論じたと思うと失恋し泣きじゃくる。つきあいきれないと思われることもあろうでしょうが、本人は保護者のかたに甘えたり離れようとしたり、依存しながらの反発をくりかえしながら自立していきます。こんな青年期真っ只中のひとに、自らの価値観を良かれと思って話してみても良い反応は返ってきませんが、信頼していることや親としていつまでも支持していくことを、説得調ではなく、さりげなく時を置いてくり返し表現していくことは重要です。

精神的に追い詰められ重大な局面に遭遇したとき、そのことを思い出し、生きてみようと思ったと話してくれた学生達を私は多く知っています。

幸い最近では、こころを伝える手段が増えました。手紙、携帯電話、メール、などなど。さりげなく、時を置いて、くり返し、親としての温かい思いを伝えてください。学生さんが親になったとき、自分の子どもに、そうしてくれるのもいいではないですか。

賢明な皆様には、既に十分ご存知のことばかり書いてしまったような気がします。何か気がかりなこと、ご心配なことがありましたら、お気軽に学生相談室に連絡してください。

筑波大学開学30周年（創基131年）記念募金寄付芳名録

筑波大学開学30周年記念募金にご協力を賜り、誠にありがとうございます。これまで紫峰会を通じて募金をいただいた方々の芳名を掲載させていただきました。

平成15年5月24日～平成15年11月7日、敬称略50音順

合計 703件 合計金額 5,833,000円
累計 1,894件 累計金額 16,847,000円

- 相川 純一
- 相原 春樹
- 青木 泰行
- 青木 孝
- 青木 勤
- 青木 幹成
- 青田 誠
- 青砥 雅直
- 青柳 芳喜
- 赤井 優
- 赤繁 清生
- 赤穂 徹雄
- 赤松 文雄
- 阿木 孝行
- 秋津 玲子
- 浅古 茂之
- 浅見 健太
- 浅見 零
- 芦川 正芳
- 安島 政一
- 安達 俊雄
- 阿部 梅夫
- 阿部 務
- 阿部 正洋
- 雨田 研二郎
- 甘利 久美子
- 新居 敏夫
- 有岡 五男
- 有馬 茂樹
- 有本 和博
- 安藤 四十三
- 飯尾 慈章
- 飯島 孝夫
- 飯田 廣太郎
- 飯田 俊二
- 飯田 学
- 飯塚 亨
- 飯塚 英人
- 家本 茂
- 井口 浩志
- 生野 哲雄
- 池嶋 孝
- 池田 晶
- 池田 重吾
- 池田 秀平
- 井坂 直人
- 石井 邦夫
- 石井 勉
- 石踊 司
- 石上 清太郎
- 石川 彰
- 石川 徹
- 石川 三千代
- 石川 禎昭
- 石倉 誠二
- 石崎 厚子
- 石塚 文男
- 石飛 芳徳
- 石橋 明夫
- 石原 啓志
- 石原 行雄
- 石本 正夫
- 泉 寛容
- 磯崎 晃
- 市川 清孝
- 市川 修市
- 市川 忠
- 市橋 勝
- 市村 治
- 伊藤 恭一郎
- 伊藤 淳一
- 伊藤 隆之
- 伊藤 等
- 伊藤 博文
- 伊藤 実雄
- 伊東 幸恵
- 稲垣 淳代
- 稲川 章
- 稲葉 康徳
- 犬塚 敏彦
- 井上 恵太郎
- 井上 謙二
- 井上 英美
- 井上 幸雄
- 今井 竜三郎
- 今枝 正仁
- 岩井 修三
- 祝田 光子
- 岩佐 洋
- 岩崎 忠昭
- 岩崎 均
- 岩橋 祐司
- 岩本 正己
- 上田 義輝
- 上原 久利
- 上原 幸伸
- 植松 七恵
- 宇佐美 徹
- 牛嶋 修三
- 内田 道夫
- 内山 均
- 内山 祐介
- 宇野 寿男
- 浦上 伸一
- 江口 一衛
- 江口 和子
- 江口 義弘
- 江島 廣典
- 海老沢 正
- 蝦田 佑一
- 海老根 直之
- 遠藤 哲
- 遠藤 悦弘
- 及川 清三
- 生沼 浄士
- 大石 實
- 大川 豊造
- 大木 文雄
- 大城 悠紀子
- 大沢 喜代美
- 大沢 冬樹
- 大島 利夫
- 大島 洋子
- 大隅 貴史
- 太田 博
- 大谷 郁
- 大谷 孝和
- 大津 俊夫
- 大塚 実
- 大槻 正利
- 大沼 親雄
- 大沼 道夫
- 大橋 三郎
- 大畠 和子
- 大濱 雅裕
- 大平 茂男
- 大森 哲郎
- 大谷 渡
- 岡野 裕行
- 岡本 昭三
- 岡本 正勝
- 小川 雅文
- 荻野 和久
- 荻野 正信
- 沖村 隆雄
- 奥 宗光
- 奥津 一仁
- 奥本 泰裕
- 小栗 祐司
- 長田 信夫
- 小沢 明
- 小澤 清志
- 小澤 賢幸

- 小澤 優輝
- 小澤 由徳
- 鬼塚 幸城
- 小野 清敏
- 小野 武夫
- 小野 七生
- 尾畑 祐一
- 尾山 ちさと
- 小山 正人
- 甲斐 善一
- 貝瀬 正次
- 海東 和洋
- 柿内 賢次
- 影山 裕史
- 河西 芳彦
- 笠原 美吉
- 柏田 昭市
- 片桐 浩一
- 片桐 春夫
- 片山 陽一
- 勝本 将意
- 角 雅範
- 加藤 恵正
- 加藤 和人
- 加藤 恵司
- 加藤 啓造
- 加藤 研一
- 加藤 清一郎
- 加藤 信勝
- 金澤 健一
- 金丸 正洋
- 金森 令子
- 金子 實
- 金谷 達美
- 金森 雄大
- 壁谷 隆義
- 鎌倉 清人
- 鎌田 忍
- 鎌田 登
- 加茂 睦和
- 河合 誠三
- 川井 時男
- 川上 洋平
- 川口 義彦
- 川崎 千恵子
- 川澄 涼子
- 川田 行雄
- 川鍋 久男
- 川村 観一
- 川村 更生
- 神田 仁
- 神田 基成
- 菅野 嘉元
- 喜久里 教樹
- 菊地 秀行
- 菊野 健治
- 北原 郁生
- 北原 大記
- 北邨 健
- 北村 美夜子
- 鬼頭 春樹

- 木南 誠
- 木村 和夫
- 木村 裕行
- 木村 美根一
- 木村 安志
- 清野 俊太郎
- 清原 浩
- 清宮 宗孝
- 金城 秀文
- 草野 秀文
- 工藤 尚彦
- 工藤 秀男
- 宮内 健治
- 久保 和男
- 久保 和也
- 窪 三郎
- 久保 光司
- 久保田 務
- 熊田 志郎
- 栗田 多喜夫
- 栗林 勉
- 栗山 弘行
- 黒川 幸春
- 黒沢 和雄
- 黒田 隆二
- 桑原 彰
- 桑原 文孝
- 軍司 吉郎
- 小泉 重一
- 小泉 順二
- 合田 修
- 河野 寛
- 高路地 忠司
- 國分 正昭
- 小阪 良夫
- 小島 伸彦
- 小谷 茂彦
- 小谷 純久
- 小玉 良一
- 後藤 健夫
- 小林 亜希
- 小林 邦夫
- 小林 茂隆
- 小林 敏行
- 小林 睦
- 小林 洋三
- 小針 克夫
- 小宮山 真平
- 小宮山 忠
- 小柳 俊三
- 近藤 兼男
- 近藤 貢二
- 近藤 修平
- 斎藤 強一
- 齋藤 繁延
- 齋藤 繁範
- 齋藤 寿太郎
- 齋藤 幸俊
- 齋藤 文和
- 齋藤 文泰
- 齋藤 康人

- 齋藤 洋次
- 齋藤 好久
- 材木 清
- 境田 等
- 榊原 宏一
- 坂口 敬
- 坂口 久敏
- 坂本 公勇
- 坂本 文左工門
- 坂本 八寿子
- 佐倉 和久
- 桜井 裕司
- 櫻田 剛
- 桜田 初雄
- 佐々木 和昭
- 佐々木 勝久
- 佐々木 恵児
- 佐々木 純一
- 佐々木 秀幸
- 佐々木 雅司
- 佐々木 雅敏
- 里 雄二
- 佐藤 和洋
- 佐藤 貴子
- 佐藤 徹
- 佐藤 敏生
- 佐藤 恒
- 佐藤 政広
- 佐藤 充
- 佐藤 守利
- 真田 敏雄
- 佐野 清文
- 佐野 洋介
- 山東 悠介
- 椎名 重夫
- 椎野 泰明
- 塩谷 美知子
- 重本 文男
- 篠原 久
- 柴田 憲一
- 柴田 通正
- 柴田 光雄
- 渋谷 栄一
- 嶋田 昇市郎
- 清水 栄
- 志水 勇治
- 清水 祐介
- 清水 義博
- 志村 悦男
- 下居 泰男
- 下妻 成人
- 下平尾 勳
- 下村 透
- 城 好志
- 庄形 健二
- 庄司 浅市
- 白石 賢一
- 白砂 繁夫
- 白戸 英憲
- 進 昭紘
- 進 かおり

神保	政美	多田	昌弘	長平	弘	福島	裕一	御園生	博	山口	秀樹
未延	博	貞末	恭之	中村	紀彦	福田	茂	溝淵	正司	山口	好正
菅野	晴夫	田中	好一	中村	一雄	福田	文夫	道上	幸司	山口	若菜
菅谷	信行	田中	淳一	中村	浩一	福田	芳明	光井	勝	山崎	勝利
菅原	勝吉	田中	潤一郎	中村	裕	福山	幸雄	三ツ元	清孝	山崎	眞純
菅原	誠志	田中	俊幸	中村	雅子	藤巻	吉士郎	緑川	則仁	山崎	義夫
菅原	正徳	田中	智也	中本	裕二	藤村	幸男	皆葉	達也	山下	福一
杉浦	京子	田中	貢	永山	忠義	藤山	英春	峯岸	建二	山田	省三
杉田	誠	田中	良信	奈須野	康夫	二村	敏昭	三原	孝夫	山田	利夫
杉村	源治	田邊	照治	夏秋	博	古井	勇吉	宮城	三代子	山田	富士男
杉盛	耕益	田辺	嶺	鍋島	充志	古川	統彦	宮城	善秀	山中	明良
杉山	和由	谷岡	進	並木	史郎	古沢	勝彦	宮崎	進治	山根	敏明
杉山	新策	谷口	能敬	西山	貴介	古館	新子	宮崎	藤夫	山村	卓
杉山	等	谷口	康雄	新田	孝幸	平野	正俊	宮澤	廣幸	山本	孝家
鈴木	和男	谷田	正彦	根本	和明	別所	吉則	宮沢	稔	山本	満子
鈴木	沙織里	田野井	眞理子	軒原	良二	星越	健一	宮澤	靖人	山本	久
鈴木	貞男	田上	敏文	野坂	幸男	星野	英夫	宮地	伊三道	山本	彬人
鈴木	仁	玉城	薫	野澤	茂	細野	芳久	宮嶋	英司	山本	養父
鈴木	辰典	田村	栄造	野田	修久	堀	一直	宮地	幸雄	與語	靖洋
鈴木	努	田山	義行	野村	秀樹	堀	孝	宮部	太	横口	慶三
鈴木	利明	千田	文彦	野村	芳彦	堀井	信行	宮本	洋一	横田	宏
鈴木	麻衣子	知念	清哲	野本	高志	堀井	博志	向井	久雄	横幕	功
鈴木	保広	千葉	寶男	野本	ひろ子	堀切	記勝	牟田	文夫	横山	昌鶴
鈴木	豊	千葉	洋	埜渡	清	堀口	文男	村上	正信	横山	茂樹
鈴木	義弘	千葉	博胤	芳賀	康	前田	輝雄	村上	基一	横山	信人
首藤	吟	千葉	裕	橋本	清一	前田	等	村越	好信	吉川	修二
須藤	昭一	中元	和博	橋本	昌久	前原	勲夫	村越	篤	吉田	和民
関川	正澄	長弘	基	長谷川	和良	牧野	恵一	村瀬	健二	吉田	幸司
瀬和	努	塚田	研一	長谷川	親義	増田	清	村田	清	吉田	純一
全代会OB会有朋会		辻	勝好	長谷川	佳秀	増田	國三郎	村松	聖	吉田	輝男
園木	敏和	綱川	浄	端	文昭	増田	浩一	村山	秀雄	吉田	正己
染谷	智恵子	常見	光雄	畠山	徹	松浦	重雄	村山	浩志	吉田	光広
高尾	哲郎	津吹	明雄	波田野	公平	松浦	龍一	目黒	信吉	吉元	孝
高岡	克次	円谷	孝雄	花町	優次	松尾	啓史	毛利	省吾	吉本	安暢
高丘	忠道	坪	俊輔	羽生	健志	松尾	好員	望月	治彦	依田	盛宏
高倉	敏彦	坪木	雄二	濱田	英史	松岡	喜代子	元木	茂	世戸	明治
高崎	幸恵	寺井	洋貴	濱谷	文治	松儀	正雄	森	二郎	米澤	正流
高田	純	寺崎	孝子	林	州昭	松澤	健司	森	利喜	米澤	勝
高田	隆	藤部	正進	林	浩三	松澤	幸男	森	三規	米山	忠克
高鳥	和可子	遠山	正悠	林	茂雄	松島	英雄	森	島	力丸	博之
高梨	正敏	梅	睦彦	林	幹雄	松田	勇	森島	正樹	呂カ	ン林
高野	興一	富永	篤	林	芳男	松田	義彦	森園	秀行	若林	吉熙
高橋	喜久男	富永	正人	原	工	松永	喜材	森田	教義	若松	繁雄
高橋	聖	豊崎	清二	原崎	重孝	松波	善徳	森藤	学	涌井	政司
高橋	壽也	豊田	幸雄	原野	三男	松橋	靖之	森弘	亮一	鷺田	良治
高橋	利征	内藤	順子	比嘉	政昭	松原	明	諸澤	正雄	和田	時夫
高橋	英敬	内藤	達也	比嘉	利栄	松本	俊二	諸田	勝	和田	秀敏
高橋	博行	永井	存	東園	雄太	間中	秀男	八倉	孝仁	渡井	渡
高橋	実	中川	秀平	比屋根	剛	丸尾	哲郎	八畝	保男	渡辺	和広
田川	拓海	中河内	雅加	兵働	信	丸橋	達雄	八越	和司	渡辺	一行
田口	則子	永倉	英和	平田	博良	丸山	敏朗	矢沢	敏之	渡辺	重明
竹井	康彦	中里	哲郎	平田	正志	三浦	均	矢田	秀雄	渡辺	孝義
武市	正明	長嵩	いと	平野	公二	三木	教司	柳澤	輝行	渡邊	勉
竹内	勝彦	中嶋	滋	平野	順英	三木	仲二	柳田	文男	渡辺	信夫
武嶋	茂	中嶋	富久	平野	孝雄	三木	雅子	矢野	幸治	渡邊	等
武田	文也	中田	政治	平野	はるな	三木	政実	矢野	秀雄	渡辺	博
竹鼻	久一	中田	良平	平山	邦弘	三木	民生	矢萩	正夫	渡辺	藤夫
竹本	正和	中西	孝成	廣瀬	正己	三品	美佐子	山内	一幸	渡邊	正一
竹山	博史	中野	栄一	廣瀬	隆一	三島	富士雄	山形	一哉	渡部	義徳
多胡	秀二	中野	圭喜	福島	光繁	水島	好夫	山川	泰司		
田島	信次	中野	二郎	福島	孝和	水野	正行	山口	とし		

年末特別企画 三系委員長より

体育会執行委員長
重松 大・体育4年



今年一年間、体育会では前年までの組織改革の流れを受けて、組織の安定化と運営面の質的な充実を目標に掲げてきた。そのために、2月の幹部研修会、8月の「集中審議の日」等で執行委員の選出方法など、体育会の運営をより円滑にする方法を考えてきた。その結果次期執行委員の選出は昨年よりも早く行われ、次年度に向けての十分な引き継ぎを行える態勢を作ることができた。

また、今年度は3年ぶりの顧問教官連絡会の実施を検討してきた。この会については体育会所属の学生と各サークルの顧問教官の対話の場として考えていたが、大学の教官を一同に集めることの難しさもあって会自体の有効性についての議論がなかなかまとまらず、年内の実施は断念することとなった。しかし、顧問教官は必須とされているにも関わらずそのあり方がはっきりと示されていないなど、問題があると考えられる。これについては次年度以降の執行委員に継続して検討して欲しいと思う。

全体としては、今年の執行委員に運営委員での下積み経験のない者が多く、その成長を待たなければならない部分があったために、消化不良の部分があったように思う。しかし、来年は今年蓄えた力を生かし、大きな躍進を遂げてくれるものと考えている。

本年も紫峰会会員の皆様のご支援により筑波大学のサークル、学内行事などの諸活動を活発に行うことができました。そこで12月に任期を迎える学生組織の委員長に2003年を振り返ってもらいました。

文化系サークル連合会運営委員長
井上 東(工シス3年)



文化系のサークルは、一部の団体を除いて競技結果や公演などのはっきり目に見える形で活動の記録が残るわけではありません。個人的には幅広い人間関係ができ、充実した毎日と人間的成長が得られれば意義として十分だと思うのですが、一方で、課外活動の重要性をアピールする材料が欲しいと思うことがあります。これは私の所属サークル(点字サークル「てんつく」)にも関連します。サークルでは少しでも理解が進めばと分野に近い団体同士で、新歓や学園祭で合同企画を行いました。ですが、文サ連として出来ることとなるとなかなか難しく、課題の一つと言えます。

図書館情報大学との統合も多少の問題を抱えています。活動のフィールドが広がって歓迎する声もあれば、伝統ある名前が消えることに戸惑う向きもあり、現在お互いが納得できる形を探っているところです。

就任以降、少しでも文サ連を知ってもらい親しみを持ってもらえるよう、色々な人に声をかけ、話をしてきたつもりです。任期は残りわずかですが、少しずつ考えてきたことが無駄にならないように、次の執行部にも引き継ぎたいと思います。最後に、様々な形で私たちの活動へのご理解とご支援をいただいた紫峰会の方々にお礼を申し上げます。

芸術系サークル連合会運営委員長
花岡亜希(比較文化学類3年)



年々、芸サ連所属団体の活動は活発になっていくように感じられます。学内やつくば市内での公演・演奏会は毎月多数開かれ、つくばを出て活動を展開したり、積極的に全国規模の大会に出場するサークルもありました。サークル同士の交流も盛んで、他サークルの構成員を招いての演奏会や合同企画には私も客として足を運び、普段とは一味違った発表を楽しみました。開学記念館を利用して伝統文化系サークルが自発的に企画している「天上大風」などは今年で3年目を迎えるまでに至り、学内・学外問わず好評を博しています。

また、芸サ連が企画・運営し、多くの団体が参加する春の芸術祭は、学外の音楽企画団体を招いて学生との合同ステージを挙行するなど、例年以上に大規模なものとなりました。冬にはクリスマスコンサートが控え、芸サ連各団体は現在練習の真っ最中です。

盛んな活動の反面、運営面(特に財務面)が複雑になり、悩みを持つようになったサークルもあるようです。私たち運営委員会では、会計面接を通して会計のアドバイスを行うなどサークル活動のサポート行ったり、サークルの意見を聞き大学側に要望を行ったりしてきました。これからも構成員一人一人が楽しめる環境を提供できるよう努力していきたいと思っています。

筑波大学落語研究会 夜女亭女夜プロデュース興行 どきッ_女だらけのお囃大会

日時: 2004年2月15日(日) 14時開場 14時半開演
場所: つくばカピオ 4F和室 入場無料・出入自由
内容: 「おはなし」(落語、漫談、マジックなど)
連絡先: 玉城佳代子090(6478)4830

こんにちは、筑波大学落語研究会です。この度当会では、女性会員有志による落語会「どきッ_女だらけのお囃大会」を興行する運びとなりました。私たち女性陣の日頃の成果を、どうぞごゆるりとお楽しみください。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

津軽三味線倶楽部無絃塾第6回卒業公演

私たちは井坂斗絲幸先生の御指導の下、関東一円で多くの公演を行っています。その無絃塾が第6回卒業公演を開催いたします。卒業生の熱い心を津軽三味線の響きにかえてお聞かせいたします。是非ご来場ください。

2004年2月15日(日) 昼の部 11:00開場 11:30開演
夜の部 16:30開場 17:00開演

つくばセンターノバホールにて一般2000円 学生1000円
ゲスト: 比氣由美子、池田昌紀子、菅原光朗、森一安、平井順治

連絡先: 井坂斗絲幸029-887-0571、吉岡090-9389-4786

Circle Headline

2003年学園祭を終えて

天文研究会・文サ連



プラネタリウム装置を確認する部員達

今、私達はほっと一息ついてます。最大の年間行事である学園祭が終わったからです。学園祭が大きな行事、と呼ばれる理由はその準備の大変さにあります。今年の学園祭では、4企画を開催しました。勿論、4企画とも一朝一夕では完成しません。1学期から綿密な準備が始まる企画も、1年間の活動の成果が集約される企画もあります。授業の合間をぬって何時間も作業を続け、家に持ち帰って徹夜する事もあります。気の張った作業が最終日まで続いた結果、今年はこのような成果を残しました。

全て手作りの「プラネタリウム上映会」では、午前・午後で作品を入れ替え、趣向の異なる3作品を上映しました。機械の質が向上し、殆ど滞りなく上映を行う事が出来ました。「天体写真展」は冷夏による悪天候の影響を受け、大変苦心しましたが、しっかり展示する事が出来ました。今年で2年目の「研究発表展」では、芸術・造形分野、文系分野、理系分野という異なる分野からの3研究が、個性豊かな発表を行いました。一番残念だったのは「公開観望会」です。3日間とも天候に恵まれず、やむを得ず中止となりました。しかしそれでも、3企画合わせて延べ2千人近いお客様にご来場頂きました。「去年よりも良くなりましたね」「午前も観たけれど午後も観に来ました」「来年も期待しています」といった感想も頂けて、本当に嬉しく励みに思いました。皆様のご意見は有難く今後の活動に反映させていただきます。

さて、来年の学園祭はどうなるで

しょうか。晴天に恵まれる事を祈りつつ、「来年も期待しています」というお言葉に沿えるよう頑張りたいと思います。(寄稿/天文研究会 小澤美由紀・日日3年)

「海洋研究会の一年」

サークル紹介・文サ連



沖縄の海でのスキューバダイビング

海洋研究会は海洋の研究を主体とした活動から、スキューバダイビングを主体としたサークルへと姿を変え、今年で30周年を迎えました。スキューバダイビングとは足フィン・マスク・シュノーケルをつけ海に素潜りし、魚を見て楽しむスポーツです。高価な装備も要らず、初心者でも少し泳げれば簡単に楽しむことができます。毎年、新入生にしっかりと指導をし、夏休みには式根や沖縄で海と魚を満喫しています。

今年の合宿は式根と沖縄です。式根では静かで綺麗な海をのんびりと楽しんできました。安全に潜れる海ですから、初めて潜る方にもお勧めです。毎年沖縄の違う島に行っていて、今年は座間味でした。豊かな生態系を誇るどこまでも青い海にメンバー一同感動が絶えません。珍しい魚、綺麗な魚を見つけたら、あちこちで歓声の音が上がっていました。

秋の学園祭にて「水族館」を開くことも大切な行事です。準備のため9月になると毎週伊豆半島の南方に出かけ、地元の方々の許可の元、自分たちで潜って魚を採集します。伊豆では固有の魚や死滅回遊魚など多様な魚たちを観察・採集できるのです。今年の学園祭には1200~1500人ももの多くの方々にご来場いただきました。来場者の感嘆の声を聞き、海や魚の良さをわかっていたいただいと確かな手ごたえを感じました。

冬はプールでの練習以外にあまり潜る機会がないので、遊びに行く機会を

増やしたり、スキーやスノーボードに行っています。このように私達はアウトドアな活動を主体にしています。多くの人に海や魚の良さを知っていただきたい!これがメンバー一同の願いです。(寄稿/渋沢昌宏・自然2年)

「学園祭を終えて」

T.A.S.C.・文サ連



お客さんを交えてのゲーム風景

私たちT.A.S.C.(筑波アクチュアルシミュレーションゲーム同好会)は、テーブルトークRPGやマルチゲームなどを週に2回ほど集まって遊んでいるサークルです。これらのゲームの説明は一口に言えないので、ここでは具体的には述べませんが、どちらも「多人数で集まって」「頭を十二分に働かせる」といった要素が含まれ、奥が深く楽しみ甲斐のあるゲームです。

さて、普段は思い切り遊んでいる私たちですが、年に2度だけ忙しくなる時期があります。それが、新歓活動と先日行われた学園祭です。

「T.A.S.C.CON'03」と称して、今年も学園祭では外部から来られたお客様と一緒にテーブルトークRPGを楽しむというイベントを行いました。準備の方では、ゲームの進行役の人数が一時不足したり、広報宣伝の情報が足りなかったりとトラブル続きでした。しかし、当日はお客様にも恵まれ、どのグループもゲームを十分楽しみ盛り上がる事ができたと思います。お客様の中には去年のイベントにも来られて、今年も楽しみにして来たという方もいて、準備での苦勞が報われた思いがしました。忙しかった学園祭も終わり、今、T.A.S.C.は一息ついている感じです。次の忙しい時期である新歓活動の準備が始まるまで、日々の活動を存分に楽しんでいこうと思います。(寄稿/T.A.S.C.副代表 浜田悠介・情報2年)

アカペラサークル Doo-Wop サークル紹介・芸サ連



観客を魅了する夜のアカペラライブ

‘歌声の魅力’に惹かれ、歌うことがたまたま大好きな者たちの集まりが私たちアカペラサークルDoo-Wopです。私達がやっている「アカペラ」というのは、歌声だけで一つの音楽を作るもので、リード・コーラス・ベース・パーカスなどで構成される5人前後のバンドを組んで活動をしています。バンドによって歌の選曲の傾向は様々ですが、'夜空のムコウ'のようなJ-popをアカペラに編曲したものや、国内外のアカペラバンドの曲を主に歌っています。

テレビの効果でアカペラというものが広く知られるようになり、この2年間でメンバーの数は2倍に膨らみ、現在では80人程の大所帯になりました。そのため、サークルのライブでは毎回の様にオーディションが必要なほどで、互いに切磋琢磨しあって歌っています。

10月に行われた筑波大学の学園祭では、『A CAPPELLA FESTIVAL ~俺たちの歌を聴いてくださ祭~』と題して三日間にわたってライブを繰り広げ、多くの方々に私たちの歌を聴いていただくことができました。このライブには、Doo-Wopに所属する全てのバンドが出演し、今年加入した新人からOB・OG、さらにはゲストに招いたプロバンドの方も含めて、とても熱いステージを作ることができました。

現在は、12月23日につくばカピオホールで行うクリスマスライブに向けて、各バンドとも練習に励んでいます。クリスマスの定番の曲はもちろん、クリスマスの素敵なひと時を演出

する歌の数々をお届けしますので是非、聴きにお越しく下さい。連絡先 hiromiazuma@hotmail.com(寄稿/Doo-Wop 高橋慧・人文3年)

雙峰祭公演「一撃」へ向けて ときめき 太鼓塾・芸サ連

私達ときめき 太鼓塾は今年の8月に創設、現在太鼓や篠笛、三線、鳴物などの練習を行い、春と秋に学内で行われる「天上大風」や、9月の「まつりつくば」での演奏を主な活動としているサークルです。

今年の雙峰祭では、初日の夜に「ときめき太鼓塾必殺公演『一撃』」を行いました。昨年は地元の太鼓会の方々にご協力いただき、迫力あるステージにすることができたのですが、今年はサークルとして動き出して初めての大舞台だったので、果たして昨年のようにできるのか正直不安がありました。というのは私達には太鼓が無いという和太鼓サークルとして致命的な問題があるからです。普段教室で行う練習ではポリバケツを改良したものを使っているのですが、それだと舞台では音が出ないので、和太鼓の演奏として初日のトリを飾ることができるのか悩まされました。しかしこの点は群馬にある太鼓店にご協力いただいて、楽器の問題を何とか解決することができました。

本物の太鼓を打つことができるようになり、週2回の練習に加え時間があれば塾生同士で呼びかけ合い練習をするなど、本番が近づくにつれ塾生のモチベーションも徐々に上がり、最高の状態で本番を迎えました。当日の夜は雨が心配され誰もが「ここまできたら最後まで演奏したい!」とっていました。いざ演奏が始まり、最初は緊張した面持ちの塾生も舞台が終わる頃には最高の笑顔をしていました。また観客の方からも多大な評価を頂き、初舞台は成功を遂げることができました。

まだまだ未熟なサークルではありますが、良い舞台を披露するために塾生一同ますます精進いたしますので、今後とも皆様のご声援をよろしくお願いします。(寄稿/ときめき 太鼓塾 平野尊智・資源2年)

「慶応戦に勝利して」 ラグビー部・体育会



サイド攻撃を必死のタックルで食い止める

今シーズン筑波大学ラグビー部は、保坂主将のもと、ディフェンスを中心としたチーム作りをしてきた。しかし春シーズンは、4年生の教育実習、主力メンバーの怪我と様々な要因が重なり、なかなか結果が出せずにいた。Aチームは春の最終戦で久々の白星をあげることが出来たものの、不振に喘ぐチームにとって、それまでの期間はあまりにも短く感じられた。強化練、北海道や菅平での合宿と瞬間に時は流れ、遂に、ラグビーシーズンの到来となった。

10月19日、慶応大学戦(秩父宮ラグビー場)。ここまでの筑波は、開幕から2連敗しているため、残りの5試合で4勝しなければ大学選手権に進めないという“がけっぷち”の状況であった。この状況が、選手達を奮い立たせ、価値のある勝利を引き込んだと思う。

試合は、前半、筑波がPGで先制。その後、お互いに決め手を欠きながら試合は進んで行くが、36分筑波のパスミスからトライを奪われ、3-7と逆転されて、そのまま前半を終わる。しかし選手に動揺はなかった。自信を持っているディフェンスが、慶応アタックを、悉く許さなかったからである。

後半に入るとお互いがキックを使い、ゲームが動き始める。得点が動いたのは29分。筑波が敵陣深くに攻めこみ、ゴール前でペナルティをもらいスクラムを選択。真直ぐ押し込み、SH大和がトライ。逆転に成功した、10-7。しかしその直後の33分には、ミスキックからカウンターされトライ、再逆転を許す、10-14。ああ、いつもの負けパターンなのかと嫌な考えが頭をよぎる。だが、この日の筑波は何か

が違った。4点を追う後半39分、ゴール前5メートル、相手のペナルティを再度もらう。保坂主将は迷わず「スクラム勝負」を指示した。秩父宮が揺れる。狙い通りスクラムを押し込み、最後はラックからSH大和が持ち出して決勝の逆転トライを奪取した。

ノーサイドになると全員が抱き合い、慶大戦6年ぶりの、そしてなによりも欲しかった白星を喜んだ。(寄稿/ラグビー部 池田大輔・体育4年)

心身統一合気道会

サークル紹介・体育会

合気道とは、力を使わず、向かってくる相手の力を利用して投げる武道です。そこで稽古では、力を使わずに相手を制するための練習をしています。力を必要としないので、男女関係なく出来ます。大学にある武道館内の道場で、月曜日から金曜日の朝7時から8時、土曜日の朝7時半から9時半と朝練を中心に活動しています。また、土曜日は月2回、茨城県支部の師範が稽古をつけに来てくださいます。日曜日以外毎日朝練なので、基本的にみんな朝に強くなります。

合気道では年に数回昇級審査があり、技が正しく出来ているかをチェックされます。1年生では1年で10級から6級くらいまで上がれます。合宿は、春と夏の2回、筑波の合宿所に泊まり込みいつもの道場で朝練から夜練まで合気道漬けになります。普段の練習と違って受身の練習が多くなり、筋肉痛になるほど練習しますが、かなり上達します。また、新入生歓迎の時期と学園祭では学内の芝生で演武をしています。また夏には練習した技を競いあう全国大会があります。筑波大からも毎年数名が出場しており、春から大会に向けての練習も行われています。

1～3年生合わせて30人ほどですが、学年の上下に関係なく気さくにやっています。また、練習にはOBの先輩が来て後輩に技を教えてください。練習外でもサークルで集まって飲み会や旅行をするなど、とてもアットホームなサークルです。(寄稿/心身統一合気道会主務 前山絵里・資源3年)

少林寺拳法部

サークル紹介・体育会



女子初段の演武(全国大会にて)

私たち少林寺拳法部は、週3回の活動日の中で突き・蹴りの基本、相手の突き・蹴りに対しての反撃技である剛法や、相手がつかみかかってくる時に相手の関節をきめて倒す柔法を中心に練習しています。

今年の主な活動は、朝から晩まで少林寺漬けになる3月の春合宿に始まり、4月から5月にかけて、新入生歓迎祭や武道系サークル合同演武会や春季スポーツ・デーの開会式などで演武を披露しました。今年は新たな仲間が14人増え、幸先のいいスタートを切ることができました。7月末には、夏の特別練習を締めくくる夏合宿が福島県いわき市で行われました。今年は5月の関東学生大会、7月の茨城県大会、10月の全日本学生大会に参加しました。茨城県大会では、3組が最優秀賞を獲り、茨城県代表として11月の全国大会に出場しました。

特に今年一番の思い出は、夏休みに行われる「夏練」と夏合宿です。「夏練」では、普段の練習以外に12分間走や400メートルダッシュなどの体力トレーニングをしました。一方、夏合宿では練習以外でも、肝試しや海水浴などのレクリエーションが行われました。辛い「夏練」と楽しい夏合宿によって、一年生を始めとして技術が向上し、部全体の親睦を深めることができました。これからも部員一同切磋琢磨して頑張っていきたいと思えます。(寄稿/少林寺拳法部 永浜陽介・人文3年)

「東医体を終えて」

医学卓球部・体育会医学支部

今年の暑くなり始めた8月初旬に東医体卓球競技は開催され、東日本の医

科学生総勢約300人が参加しました。東医体は医科学生にとって最も大きな大会となっており、そこで優勝することが1つの目標となっています。私たちは昨年、男子団体2連覇、女子団体準優勝といった非常に良い成績を上げることができました。今年もいい結果が残せるよう、年2回の合宿や夏練習を経て今年度東医体に臨むことになりました。昨年と違い、主力の6年生が抜けてしまって厳しい大会になること



個人戦男子ダブルス優勝の今川・上野組が予想されました。しかしながら、部員一人一人が高い意識を持って練習に参加しているため、昨年以上の熱い情熱がありました。特に女子部員はほとんどが大学に入学してから始めたいわゆる初心者であるにも関わらず、一生懸命練習に臨み、各大会で良い成績を収めています。今年の春季医科学生関東リーグでは初優勝するなど成長著しいです。

結果的に、東医体の成績は、男子団体3年連続優勝、女子団体ベスト16となりました。男女とも試合は厳しいものでしたが、それぞれベストを尽くすことができました。さらに個人戦では、男子ダブルスで3年生ペアが優勝し、若手の成長も顕著に見られました。

医学卓球部は医学・医療科学類生が中心になって運営されています。しかし、部を構成している部員の約半分はそれ以外の学類生です。そのため、交友も広くなりますし、みんな楽しく練習しています。医学の大会のときでも、応援に駆けつけてくれ、とても力になります。

今後も医学卓球部はさらに輝く部になっていきたいと思えます。次の目標は東医体男子団体4連覇、女子団体初優勝と来年を見据え、日々練習していきます。(寄稿/医学卓球部 今川和生・医学3年)

芸サ連広報局長 川本 翠

(筑波能・狂言研究会・比文二年)

もう任期満了か、月日の経つのははやいもの、などと今になればしみじみ思うのですが、なんと内容の詰まった一年でした。私にとって未知の領域であったパソコンに触れました。マスターできなかつたけれど、彼らに対する恐怖感はかなり軽減されたと思います。そして、いろんな人に仕事を頼み、いろいろ教えられて支えられて……。言葉だけではなく人を信用することを知ったと思います。広報の仕事を通して得たものは、文章力よりも、むしろ社会性です。

芸サ連広報局員 滝沢 藍子

(津軽三味線倶楽部無絃塾・人間2年)

1年前、たまたま運営委員になり広報局員、紫峰会報のスタッフになりました。わけのわからないまま、まさに手探りでなんとかやっけていくうちに、今になって仕事や紫峰会のことがわかるようになってきました。文章を書くのも、カメラのファインダーから覗く景色も全てが新しく貴重な経験でした。...ですが、私はまだ終わりません！来年もこの仕事を、広報局長として続けます。また1年間皆様のご協力・ご支援をお願いします。

文サ連広報局長 鈴木 勝博

(園芸クラブ・情報3年)

昨年、広報局長に就任したての頃は編集作業の流れについていだけで精一杯でした。初めて編集作業に携わった

Editors'2003

一年間頑張って、会員の皆様に色々な情報を提供してきた彼らも今号で引退です。最後の一人一言を聞いて下さい。



後列左より 浜田、菅谷、鈴木
前列左より 滝沢、永浜、川本

ことや自身の計画性、文章力の無さも崇めて、皆さんには迷惑ばかりかけてしまったと思います。この一年間、読者を意識した文章がいかに難しいか、編集以前の手配がいかに大切か、を考えさせていただきました。貴重な体験をありがとうございます。読者の皆様ここまでお付き合いいただきありがとうございました。

文サ連広報局員 浜田 悠介

(T.A.S.C.・情報2年)

編集とは無縁の世界におり、右も左も分からないまま紫峰会の事務所に来てからもう一年が過ぎました。この紫峰会報の編集作業で実に多くのことを学べたと思います。編集作業のノウハウや、紫峰会という組織について少な

からず理解を深めることができました。そして、何より広報物を作り上げる大変さや楽しさを知ることができました。この一年間の経験は必ずこれからの自分の活動にプラスになると感じています。貴重な体験をありがとうございました。

体育会広報局長 永浜陽介

(少林寺拳法部・人文3年)

去年の一月から編集に携わるようになってはや一年。文章を書くことが苦手でしたが、この一年で少しは文章が書けるようになったと思います。また、発行物を出すことの難しい手順などの仕組みや文章の書くことの難しさや楽しさを知ることができました。今年で編集作業は終わりですが、来年も体育会の執行委員としてもう一年間ここで学んだことを生かして頑張っていきたいと思います。

体育会医学支部広報局長 菅谷 明德
(医学硬式テニス部・医学3年)

何もわからずに医学支部の執行委員となり、何もわからずに紫峰会報を編集して1年になるうとしています。この1年間で、発行物を作るという大変さが身にしみてわかりました。大学の実習の関係で、会議には遅刻の連続で、他のみんなには迷惑をかけたつもりでしたが、私なりにがんばったつもりです。私の仕事によって体育会医学支部の活動が皆様に伝わったとしたら幸いです。1年間ありがとうございました。

クリスマスコンサート2003開催

今年も恒例のクリスマスコンサートが開催されます。ステージ出演団体、展示団体の日程、開催場所は以下の通りです。是非ご来場下さい。

ステージ

12月10日(水)～12日(金) 開場17:30 開演18:00 場所: 大学会館ホール

10日(水) ピアノ愛好会、合唱団むくどり、邦楽部、管弦楽団、津軽三味線倶楽部無絃塾、幕間: 筑波放送協会

11日(木) アカペラサークルDoo-Wop、ギター・マンドリン部、つくばフォーク村、筑波音楽協会、ジャズ愛好会

12日(金) フラメンコ同好会～ロサロハ～、ブロックフレーテ同好会、フォルクロレ愛好会、E.L.L.、吹奏楽団、幕間: 筑波放送協会

展示

12/8(月)～12/12(金) 焼き物をつくる会(於 大学会館本館ギャラリー)

書道部(於 大学会館別館ホール)

主催: 筑波大学大学会館 企画・運営: 芸術系サークル連合会

お問い合わせ tarrega@ezweb.ne.jp(永井)

芸術専門学群卒業制作展及び芸術学研究科修了展のお知らせ

筑波大学で芸術を学び、磨き抜かれた作品の数々がごらんいただける、平成15年度卒業制作展/修了展が下記にて開催されます。是非お越し下さい。
場 所 茨城県立つくば美術館
(つくばセンターバス停より徒歩5分)
日 程

2/10(火)～15(日)[美術専攻]

2/17(火)～22(日)[構成・デザイン専攻]

2/24(火)～29(日)[修了展]

2/21(土)には併設のアルスホールにて芸術学専攻の発表会が行われます。